

2017（平成29）年度 研究所報告

1. 組織（2017年6月1日現在）

所 長	加藤 丈雄
主 事	松浦 典弘
委 員	乾 源俊（大学院文学研究科長）
	藤谷 徳孝（教育研究支援部事務部長）
	野澤 弘篤（教育研究支援課長）
	阿部 利洋（教授・社会学）
	織田 顕祐（教授・仏教学）
	脇坂 真弥（准教授・宗教哲学・倫理学）
	赤澤 清孝（准教授・公共経営学）
	藤原 正寿（短期大学部准教授・真宗学）
	新田 智通（講師・仏教学）

2. 研究組織

〔特定研究〕

新しい時代における寺院のあり方研究

研 究 課 題 現代社会と寺院の抱える問題点の分析、およびそこでの寺院の果たし得る役割についての研究

研究代表者	木越 康（学長・教授・真宗学）
研 究 員	東館 紹見（教授・日本仏教史）
	山下 憲昭（教授・社会福祉学）
	徳田 剛（准教授・地域社会学）
	藤枝 真（准教授・宗教学・哲学）
	藤元 雅文（短期大学部講師・真宗学）

嘱託研究員 本林 靖久（本学非常勤講師）

研究補助員（RA） 松岡 淳爾（博士後期課程第1学年）

〔指定研究〕

国際仏教研究

研 究 課 題 諸外国における仏教研究の動向の把握と資料の収集・整理・公開

研究代表者	井上 尚実
研 究 員	井上 尚実（短期大学部教授・真宗学）
	Robert F. Rhodes（教授・仏教学）
	新田 智通（講師・仏教学）
	Michael J. Conway（講師・真宗学）

- 井黒 忍（准教授・東洋史学）
- 嘱託研究員 Michael Pye（マールブルク大学名誉教授）
 James C. Dobbins（オーバーリン大学教授）
 Mark L. Blum（カリフォルニア大学バークレー校教授）
 Paul Watt（早稲田大学留学センター教授）
 下田 正弘（東京大学教授）
 Galen Amstutz（仏教大学院大学（IBS）非常勤講師）
 Max Deeg（ウェールズ大学カーディフ校教授）
 Thomas P. Kasulis（オハイオ大学名誉教授）
 羽田 信生（毎田周一センター所長）
 阿満 道尋（モンタナ大学准教授）
 Wayne S. Yokoyama（花園大学元講師）
- 研究補助員（RA） 梶 哲也（博士後期課程第3学年）
 常塚 勇哲（博士後期課程第1学年）

西藏文献研究

- 研究課題 チベット語文献のデータベース化
- 研究代表者 三宅伸一郎
- 研究員 三宅伸一郎（准教授・チベット学）
 上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）
 松川 節（教授・モンゴル学）
- 嘱託研究員 白館 戒雲（本学名誉教授）
 高本 康子（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 共同研究員）
 伴 真一朗（2016年度西藏文献研究嘱託研究員）
 P. DELGERJARGAL（モンゴル国立大学総合科学部副学部長）
 山口 欧志（奈良文化財研究所研究員）
 渡邊 温子（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究補助員（RA） ARILDII BURMAA（博士後期課程第3学年）
 GENGZANG QIEZHU（博士後期課程第3学年）

ベトナム仏教研究

- 研究課題 ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との共同研究
- 研究代表者 織田 顕祐
- 研究員 織田 顕祐（教授・仏教学）
 浅見直一郎（教授・東洋史学）
 采罽 晃（准教授・仏教学）
- 嘱託研究員 箕浦 暁雄（准教授・仏教学）
 松浦 典弘（研究所主事・准教授・東洋史学）

桃木 至朗（大阪大学教授）
 大西 和彦（ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院客員研究員）
 福島 重（函館大谷短期大学非常勤講師）
 宮嶋 純子（関西大学東西学術研究所非常勤研究員）

東京分室指定研究

研究課題 宗教的言語の受容／形成についての総合的研究—哲学的・宗教学的・人類学的視点から—

研究代表者 池上 哲司

研究員 池上 哲司（本学名誉教授）

松澤 裕樹（PD 研究員・西洋哲学）

田崎 郁子（PD 研究員・文化人類学）

藤原 智（PD 研究員・真宗学）

稲葉 維摩（PD 研究員・仏教学）

〔資料室〕

大谷大学史資料室

研究課題 大学史関係資料の収集・整理

室長 松浦 典弘（研究所主事・准教授・東洋史学）

嘱託研究員 松岡 智美（本学博士後期課程修了）

研究補助員（RA） 老泉 量（博士後期課程第2学年）

デジタル・アーカイブ資料室

研究課題 大谷大学所蔵貴重資料のデジタル・アーカイブの構築

室長 松浦 典弘（研究所主事・准教授・東洋史学）

嘱託研究員 平野 寿則（准教授・日本近世史・近世仏教史・真宗史）

清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

舟橋 智哉（2016年度西藏文献研究嘱託研究員）

山本 春奈（本学博士後期課程修了）

〔一般研究／共同研究〕

研究課題 スティラマティの俱舎論注釈書『真実義』梵文写本第一章の研究

研究代表者 小谷信千代

研究員 小谷信千代（本学名誉教授・特別研究員）

協同研究員 箕浦 暁雄（准教授・仏教学）

上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）

- 研究課題 紋章との比較による系譜の図像化規則とその構造分析
研究代表者 柴田みゆき
研究員 柴田みゆき（教授・情報処理学）
三浦誉史加（准教授・英文学・英米文化）
協同研究員 松浦 亨（北海道大学病院企画マネジメント部臨床教授）
杉山 正治（本学非常勤講師）
生田 敦司（本学非常勤講師）
清水 利明（財団法人比較法研究センター特別研究員）
横澤 大典（本学非常勤講師）
平塚 聡（四条畷学園短期大学講師）
- 研究課題 アブラナ科植物の伝播・栽培・食文化史に関する領域融合的研究
研究代表者 武田 和哉
研究員 武田 和哉（准教授・歴史学・考古学・人文情報学）
三宅伸一郎（准教授・チベット学）
協同研究員 渡辺 正夫（東北大学大学院生命科学研究科教授）
鳥山 欽哉（東北大学大学院農学研究科教授）
吉川 真司（京都大学大学院文学研究科教授）
横内 裕人（京都府立大学文学部教授）
江川 式部（明治大学商学部兼任講師）
等々力政彦（2016年度一般研究武田班②協同研究員）
清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 ウェアラブル端末を用いた大学生の学習意欲喚起のための研究
研究代表者 上田 敏樹
研究員 上田 敏樹（准教授・情報工学）
福田 洋一（教授・仏教学）
柴田みゆき（教授・情報処理学）
酒井 恵光（准教授・計算機科学）
高橋 真（講師・比較認知科学）
協同研究員 平澤 泰文（本学非常勤講師）
池田 佳和（元本学特別任用教授）
- 研究課題 モンゴルの世界遺産「大ブルカン・カルドゥン山」に関する学融合的研究
研究代表者 松川 節
研究員 松川 節（教授・モンゴル学）
三宅伸一郎（准教授・チベット学）

研 究 課 題 変動帯の文化地質学

研究代表者 鈴木 寿志

研 究 員 鈴木 寿志（教授・文化地質学）
廣川 智貴（准教授・ドイツ文学）

協同研究員 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）

研究協力員（支援）岡田 笙（放送大学教養学部履修生）

研 究 課 題 人口減少時代の地方都市・中山間地域の多文化化と地域振興に関する社会学的研究

研究代表者 徳田 剛（准教授・地域社会学）

協同研究員 梅村 麦生（日本学術振興会特別研究員・PD）

〔一般研究／個人研究〕

研 究 課 題 ハンス・リップス解釈学におけるパトスを基盤とした知識教授理論の研究

研究代表者 田中 潤一（准教授・教育学・教育哲学）

研 究 課 題 変動期アフリカ系社会におけるメディアリテラシーと公共圏の展望

研究代表者 田中 正隆（准教授・社会学）

研 究 課 題 前近代中国黄河中流域における水利権と水利組織

研究代表者 井黒 忍（准教授・東洋史学）

研 究 課 題 口承と文献学の融合に基づくチベット後期中観思想研究

研究代表者 西沢 史仁（特別研究員）

研 究 課 題 北朝鮮の音楽政策に関する研究

研究代表者 森 類臣（任期制助教・特別研究員）

研 究 課 題 再犯リスク低減と更生の基盤づくりを目指したピアサポート活動の試行的実践とその評価

研究代表者 脇中 洋（教授・発達心理学・法心理学）

研 究 課 題 『苔の衣』諸伝本の本文研究及び校本作成

研究代表者 関本 真乃（本学非常勤講師・特別研究員）

- 研究課題 現存大蔵経諸本をもちいた〈阿闍世王経〉漢訳諸本に関する文献学的研究
研究代表者 宮崎 展昌（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 ジャイナ教の死生観に関する基礎的研究—断食死儀礼の規定を中心として
研究代表者 堀田 和義（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 東南アジアサッカー市場における移民選手の戦略とネットワーク
研究代表者 阿部 利洋（教授・社会学）
- 研究課題 小規模小学校で活用できる体育教材の開発
研究代表者 高瀬 淳也（准教授・体育科教育学）
- 研究課題 インド・チベット論理学相互理解のための基礎資料の構築
研究代表者 福田 洋一（教授・仏教学）
- 研究課題 世親作『釈軌論』の総合的研究
研究代表者 上野 牧生（短期大学部講師・仏教学）
- 研究課題 「黒ノート」に依拠したハイデッガーのナチズム問題の再検討—メタポリティークを軸に
研究代表者 田鍋 良臣（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 19世紀フランス詩における宗教的混淆—教育から文学創造へ—
研究代表者 塚島 真実（任期制助教・特別研究員）
- 研究課題 東南アジア大陸部で発展した積徳行文献の体系解明
研究代表者 清水 洋平（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 『甚深伝』校訂と解析によるミラレーパの仏教思想の解明
研究代表者 渡邊 温子（本学非常勤講師・特別研究員）
- 研究課題 認知症患者との「関係性」についての新モデルの構築と展開—「主体」論を超えて
研究代表者 翁 和美（任期制助教・特別研究員）

研究課題 省察的实践者としての福祉専門職像の再構築に関する臨床研究
研究代表者 大原 ゆい（講師・社会学）

研究課題 「世界文学研究」の方法論構築—サン＝テグジュペリ『星の王子さま』研究を通じて
研究代表者 藤田 義孝（准教授・フランス文学）

3. 指定研究の動向

新しい時代における寺院のあり方研究

本研究は、人口減少や高齢化、地域構成員相互における関係性の稀薄化等の深刻な問題を抱える現代の地域社会において、寺院の果たし得る役割について研究し、その成果を公開しようとするものである。3か年の計画のうち初年度に当たる本年度においては、上記の目的に則しおよそ以下の活動を行った。なお既に研究所紀要35号（18年3月刊）に研究の概要を、研究所報71号（17年12月刊）、72号（18年8月刊）に本年度の随時の成果を提示しているので参照されたい。

①学外講師による研究会の開催：2回の公開研究会を行い、現状の把握と課題の明確化、及び各方面で活動し課題を共有し得る方々との連繋の深化に努めた。各地域・宗派において問題の深刻さが認識され種々対策が講じられつつあるものの、個別化・分散化・功利化が顕著に進む現代日本の社会状況全般と連関する問題ゆえ解決策が容易に見出せない現状と、その一方で過疎地域における寺院の活動がなお地道に行われ続けている現状とが改めて確認された。

②調査対象地域・調査内容の選定と調査の実施：本調査開始前に行った予備調査等を通じ、困難な状況にあるにもかかわらず、地域と寺院が密接に関わる形での諸活動が歴史的背景に裏づけられた形で行われ続けている点を確認できたことなどにより、対象地域を岐阜県揖斐川町春日地区に定めた。これに伴い現地での調査を計4回実施した。調査を通じ、厳しい現状の中で、地域社会の運営及び寺院の運営が従来の経緯を重視しつつ各々が密接に結びつく形で行われていること、それらの活動の重要な紐帯として寺院及びそれに関わる諸要素（行事、法要、葬送等）が認識されていることが確かめられた。また特に、本地域から他出した人々との繋がりを如何に保持・展開するかが大きな課題と認識され、種々の取り組みがなされていることが明らかになった。

③共同調査への参加：石川県七尾市での超宗派の「過疎問題連絡懇談会」主催の調査に参加し、地域と寺院の現状と課題に、よりの確にアプローチする視点・手法の明確化、及び各方面との連繋の深化に努めた。

④以上の活動の外、研究課題の明確化や調査実施に際しての具体的な手法の確認、調査結果の分析等を行うミーティングを計22回実施した。またこの他にも、東北福祉大学の研究グループの訪問を受け研究情報の交換会を行った。

国際仏教研究

本研究は、諸外国における仏教を中心とした宗教研究の動向を把握するとともに、国際社会に対して本学の真宗・仏教研究を公開することを目的としている。近年、仏教学・宗教学の分野における国際化は以前にも増して急速に進んでおり、真宗についても外国語による研究を視野に入れなければならない状況にある。そうした動きに対応すべく、欧米と東アジアの言語文化圏を担当する二つの班を置いて研究活動を進めてきた。各班の研究成果の概要は以下の通りである。

〈英米班〉

I. 翻訳研究活動

(1) 『浄土の真宗』『宗門の歩み』英訳出版への協力

阿満道尋嘱託研究員（モンタナ大学）を中心に進めてきた大谷派教師課程教科書『宗門の歩み』の翻訳チェックと編集校正作業に協力した。阿満嘱託研究員は2017年6月に来日、6月7日と14日に研究会を開催し、翻訳の難点について協議した。『宗門の歩み』は2018年8月にアメリカ真宗センターから刊行された。

(2) 『歎異抄』翻訳研究プロジェクト

2016年度に大谷大学真宗総合研究所とカリフォルニア大学バークレー校東アジア研究所および龍谷大学世界仏教文化研究センターの三機関による協定が締結され、合同で『歎異抄』およびそれに関連する近世近代の文献（講録等）を英訳研究するプロジェクトを立ち上げた。今後5年間の予定で年2回（3月にバークレー、6月に京都で1回ずつ）合同ワークショップを開催し、最終的に2冊の研究書（注釈付き本文英訳＋研究論文集）出版を目標とする。その第2回ワークショップが2017年8月4日（金）から7日（月）に本学で開催され、研究班の研究員・本学の教員・本学の大学院生が多く参加し、江戸期の主な『歎異抄』の注釈書の翻訳が進められたとともに、近代の『歎異抄』注釈書および英訳について研究発表が行われた。

II. 国際学会・シンポジウム関係

(1) IASBS におけるパネル発表

2017年6月30日（金）から7月2日（日）に武蔵野大学にて開催された国際真宗学会の第18回学術大会において、井上尚実研究代表（当時）を中心に以下の通りパネル発表が行われた。

パネルテーマ：「大谷派の近代教学における「利他」について」（Benefiting Others' in Modern Shin Buddhist Doctrinal Studies of the Ōtani-ha）

川口淳（本学助教、真宗学）「清沢満之の『臘扇記』における「如意・不如意」の思想の一考察」（A Study of “In Our Power, not in Our Power” Thought in Kiyozawa Manshi's Diary Rōsenki）

東真行（本学助教、真宗学）「金子大栄の思想における利他一彼の浄土観と教団観」（Benefit for Others in Kaneko Daiei's Thought: His View of the

Pure Land and the Religious Organization)

ジェフ・シュローダ (オレゴン大学講師) 「この人を見よ—曾我量深と戦後の仏教改革」 (Behold the Man: Soga Ryōjin and Postwar Buddhist Reform)
井上尚実 「どうして往生が現在の生に起こらなければならないか—曾我量深の利他理解」 (Why Should 'Birth in the Pure Land' Take Place in the Present Life?: Soga Ryōjin's View of 'Benefiting Others')

川口・東・井上の発表に基づく原稿は『真宗総合研究所研究紀要』35号に掲載された。

なおロバート・ローズ研究員とマイケル・コンウェイ研究員も大会に参加し、藤井淳 (駒澤大学准教授) が企画したパネルにて発表した。

(2) EAJIS への参加および発表

2017年8月31日(木)～9月2日(土)、ポルトガル国リスボン市の Universidade Nova de Lisboa で開催された第15回ヨーロッパ日本研究協会国際会議 (European Association for Japanese Studies) において、メリッサ・カーリー (オハイオ州立大学准教授) を招聘し、マイケル・コンウェイ研究員とともに哲学・思想史部会で以下の研究発表を行なった。

- ① メリッサ・カーリー 「思いの瞬間と歴史の瞬間—浄土想像圏に対する田辺元の時間的解釈」 “Thought-Moment and Historical Moment: Tanabe Hajime's Temporal Reading of the Pure Land Imaginary”
- ② マイケル・コンウェイ 「時間の流れを逆さまに—曾我量深の捉えた信の一念における歴史性と可能性」 “Inverting the Flow of Time: Soga Ryōjin's Grasp of Historicity and Potentiality in the Single Thought Moment of Faith”

(3) マギル大学における南都浄土教の国際ワークショップへの参加および発表

2017年9月29日(金)にカナダのマギル大学において開催された「Pure Land Buddhism in the Nara Schools」という国際ワークショップにて、ロバート・ローズ研究員が「『往生拾因』における永観の念仏解釈」 (“Yōkan's Interpretation of the Nenbutsu in the Ōjō jūi n”) という題で発表した。

(4) AAR 参加

2017年11月18日(土)から21日(火)にマサチューセッツ州ボストン市のハインズ会議場にて開催されたアメリカ宗教学会に、マイケル・コンウェイ研究員が、学界の動向を把握し、研究交流を行うために参加した。

(5) シンポジウム成果の出版準備

- ① *Cultivating Spirituality: A Modern Shin Buddhist Anthology* 出版記念シンポジウム成果出版

2015年6月に本学で開催されたシンポジウムの成果を出版する予定で、そのためハワイ大学出版と出版契約を結び、ウェイン横山囑託研究員と協力しながら、2019年12月末の入稿に向けて編集作業を進めている。

② 国際仏教シンポジウム「仏陀の言葉とその解釈」（ELTE 東アジア研究所と共催）成果出版

2016年5月に本学で開催されたシンポジウムの成果を出版するための計画を立て、作業を進めている。ELTE のハマル・イムレ教授と井上尚実嘱託研究員の共編で、2019年度に出版予定。

Ⅲ. 公開講演会の開催

今年度は以下の2回の公開講演会を開催した。（会場はいずれも響流館3階マルチメディア演習室）

(1) 2017年12月11日(月)16:30~18:00

講師：ジョン・ロブレグリオ氏 John Lobreglio (*The Eastern Buddhist* 誌編集者)

講題：「大正時代の日本仏教者の英米の人種差別に対する反応」(“Taishō-period Japanese Buddhist Reactions to Anglo-American Racism”)

(2) 2018年1月12日(金)16:30~18:00

講師：ジェイミー・ハバード氏 Jamie Hubbard (スミス大学教授・大谷大学真宗総合研究所客員研究員・当時)

講題：「ニューバイオロジカル 神経生物学的な一闡提：最後には、みんな真宗！」(“イッチャンティカ Neurobiological Icchantika :At the End of the Day, We Are All Shinshū!”)

Ⅳ. その他

国際研が収集してきた未整理の図書の整理・公開については、研究所所蔵の欧文仏教雑誌とデータ・ベースを照合し、欠本や図書館で継続購入している雑誌との重複などについて整理する作業を進めた。

〈東アジア班〉

I. 研究会

中国社会科学院歴史研究所との学術交流協定に基づく研究活動として2回の研究会を開催し、中国における宗教と文化に関する研究活動として1回の研究会を開催した。

(1) 中国社会科学院歴史研究所より4名の研究者を招聘し、2017年9月28日(木)に公開研究会を実施し、研究発表および討論を行った。3名の発表者と発表テーマは、以下の通りである。鄔文玲氏（中国社会科学院歴史研究所戦国秦漢史研究室副主任、研究員）「簡牘に見る漢代の契約文書」、陳爽氏（中国社会科学院歴史研究所魏晉南北朝隋唐史研究室研究員）「出土墓志に見る嫡庶の表記法と南北朝における嫡庶問題」、鄭任釗氏（中国社会科学院歴史研究所中国思想史研究室副主任、副研究員）「『春秋公羊伝』復仇説の主旨」。三氏の発表終了後に田波氏（中国社会科学院歴史研究所副所長）によりコメントが述べられた。

(2) 2018年3月6日(火)に松川節教授ならびに三鬼丈知任期制助教の2名を特別招聘者として中国社会科学院歴史研究所に派遣し、同所において公開研究会を開催した。それぞれの発表者と発表テーマは以下の通り。松川節「最近モンゴル国発現の若干の碑刻・岩壁銘文について」、三鬼丈知「中国医学における身体図像の展開について」。

(3) 2017年11月24日(金)に、坂井田夕起子氏(愛知大学国際問題研究所)を講師に迎え、戦中期における大谷派の海外布教に関する公開研究会を開催した。研究報告「真宗大谷派開教使神田恵雲とアモイ——雑誌『敬仏』『大乘』を素材として——」に基づき、今後の活用が望まれる関連史料や最新の研究成果などについて議論を深めた。

西藏文献研究

1. チベット語文献の電子テキスト化・画像デジタル化とその公開

本学図書館所蔵チベット語文献のうち、稀覯書であるシャクリンパ(shag rings pa/shag rin pa)著『プラサンナパダー注・本釈合璧心髓(*dBu ma tshig gsalba'i ti ka bshad sbyar snying po*)』(蔵外No.13964)の校訂テキストを、影印を付して刊行した。本文献は、『プラサンナパダー』の本文を引用しながらそこに注釈を施すというスタイルを採っているため、校訂テキストでは、読者の便を考え、引用される『プラサンナパダー』の本文に下線を付し、当該箇所デルゲ版・北京版テンギェルにおけるロケーションを注記した。この作業の過程で、シャクリンパが引用する『プラサンナパダー』のテキストは、現行のテンギェルに収録されるテキストと使用されている語句が一部異なっていることがわかった。

また、宗林寺(富山県南砺市城端)に所蔵されている寺本婉雅旧蔵チベット語版『モンゴル仏教史』の刊行に向け、テキストの入力や、そのモンゴル語版である『エルデニイン・エリヘ(*Erdeni-yin Erike*)』のモンゴル語テキストのローマ字転写作業、チベット語及びモンゴル語テキストの対照作業を行った。また『ブトン仏教史』の邦訳研究を行い、その研究成果は『真宗総合研究所研究紀要』第35号に掲載されている。

2. モンゴル国立大学との共同研究

モンゴル国立大学総合科学部のP.デルゲルジャルガル副学部長を本学に招聘し、共同研究を実施した。6月23日には同氏を講師として公開講演会を開催した(講演テーマ「匈奴の宗教信仰: 仏教の伝播」)。詳細は『所報』No. 71 (p. 36) 参照。また、「ゴビアルタイ県に建立された黄教伝播初期の寺院・考古遺物に関する野外調査」を8月19日～8月30日に実施した。詳細は『所報』No. 71 (pp. 26-27) 参照。

3. 寺本婉雅関連資料の研究

今後の研究資料とするために、寺本家資料の調査と写真撮影を行なった。詳細は『所報』No. 72（pp. 35-36）参照。

4. 海外の研究者・研究機関との交流

中国におけるチベット研究の拠点である中国蔵学研究中心との今後の研究交流に向け、北京の同研究中心を訪問し、関係者と意見交換を行った。詳細は『所報』No. 72（pp. 25-26）参照。

ベトナム仏教研究

当研究班は、ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院との間で締結された「学術交流に関する協定」に基づき共同研究を推進するものであり、調査・研究協力のみならず将来に向けての研究者育成などのベトナム側からの要請に応じて、仏教研究に関する相互学術的交流を行うものである。2017年度当初に研究目的として掲げた点は以下の通りである。各目標に従って2017年度の経過を報告する。

1. 『ベトナム仏教概要』の日本語訳を進める

既に執筆が終了している分については、翻訳を完了した。未執筆分があるが、執筆担当者の病氣療養により中断している。この点について6月の訪越の際に先方の責任者である宗教研究院院長と進め方を協議した。一応当方の提案を了承し、その後は責任を持つということであった。

2. 『日本仏教概要』のベトナム語訳を進める

現在のベトナムでは、学術的なレベルで日本語―ベトナム語を使用できる研究者は極めて少ない。そうした状況の中で、ハノイ国家大学付属人文科学大学准教授のPham Thi Thu Giang氏と協力関係を構築することができた。氏は日本に留学し日本仏教の分野で博士の学位を取得した現代ベトナムを代表する若手の俊秀である。『日本仏教概説』の日本語原稿はほぼ完成しており、あとは細部の調整を残すのみである。同氏の協力によって当該研究課題は次年度以降飛躍的に進展すると思われる。

3. 現地フィールドワーク

本年度は現地フィールドワークを2回実施した。具体的な内容に関しては、『研究所報』No. 71（27頁～）、No. 72（26頁～）で既に報告しているので省略する。

4. ベトナム仏教関係資料の解読研究を実施

5月以来はほぼ毎月二回のペースで研究会を実施した。当該文献は『禪苑集英』と称し、ベトナム北部地域の禪宗の伝統を伝えるものである。現存するテキスト

の成立年代は比較的新しいが、成立年代が分かっている他の文献が本書を引用することなどにより、本書が古い時代のベトナム仏教の様子を伝えるものであることが確認できた。今後も鋭意解説を進めて、終了次第出版したい。

5. 現地における「日本語・日本研究、東アジア・仏教研究」の現状把握

今回実施したベトナム中部フエにおけるフィールドワークで、新たにフエ報国寺の釈福田（Tran Quoc Phuong）氏と出会うことができた。氏は、日本に留学し中国の天台思想の研究によって博士の学位を取得した学僧である。氏とも研究交流の確認ができたので次年度以降の諸課題の進展に協力していただけると確信している。

6. ベトナム関係文献資料の収集

新たにベトナム民俗信仰や地誌に関するもの数点を収集したが、詳細に渡るのでこの点は割愛する。

東京分室指定研究

本研究は、宗教において語られる言葉が現実生きるわれわれにとってどのような働きをもたらすかを、多様な観点から明らかにしようとするものである。以下に、本年度の主な活動を記す。

1. 共同研究発表

各研究員が自らの研究課題を宗教的言語という観点から発表し、それを他の分野の視点から議論・批判するというゼミナール形式の研究会を22回ほど行った。その際、発表者には他分野の者にも理解可能な説明をすることが要求された。

2. 各研究員の活動

・松澤研究員

マイスター・エックハルトのドイツ語説教における言説をラテン語著作における言説と比較しながら、ドイツ語説教における「言葉」の特性について研究を進めている。今年度はエックハルトの「人間神化」という事柄を中心に考察した。

・田崎研究員

聖書の翻訳に伴う現地語語彙とのずれや解釈の齟齬によって生じる問題やローカル社会の再編について、関連する先行研究を整理・検討した。夏期には、タイのカレン社会におけるキリスト教への改宗や聖書の翻訳がもたらす日常生活への影響について調査した。

・藤原研究員

2017年度の活動の一つとして高野山への出張を行った。その目的は、1) 高野山大学が所蔵する仏教典籍の閲覧、2) 高野山という場での法然や親鸞に関わる

遺跡の実地調査、であった。それらは、過去の仏教者が仏教の言葉をいかに書き留めようとしたかの努力の跡であり、かつ受け止められた仏教の時代・文化の中での表象である。そのような個々の営為を通して、宗教と人間の関りというものを考えてみた。

・稲葉研究員

初期（部派）仏教で使われる仏教用語や、仏教文献を伝える言語を研究した。仏教文献の抱える基礎的な問題を意識しながら、仏教用語の研究として sakkāya の語義や非我・無所有の意味内容などを検討した。言語の研究ではパーリ語や仏教混交サンスクリット語の文法の共時的な面を検討した。

3. 海外調査

(1) 田崎研究員

2017年7月24日(月)～8月2日(木)：チェンマイ→ボケオ行政区

カレンの人々の死生観、疾病、夢など、キリスト教への改宗以後はどのような新たな言葉で捉えられ、それと共に人々の認識が変容したかについて、フィールド調査を行った。

(2) 松澤・藤原・稲葉研究員

2018年3月1日(木)～3月16日(金)：ギリシャのアトス修道院・ベルギーのオルヴァル修道院

アトスではギリシャ正教の勤行・瞑想といった修道院生活を体験し、またベルギーでは、オルヴァル修道院でカトリック（トラピスト会〔厳律シトー会〕）の勤行・瞑想を体験した。

4. 公開研究会の開催

第3回「宗教と人間」研究会

テーマ「伝統仏教と臨床仏教」

日時：2017年8月29日(火)16：00～18：00

会場：親鸞仏教センター5F セミナー室

講師：吉水岳彦氏（臨床仏教研究所研究員、大正大学非常勤講師）

第4回「宗教と人間」研究会

テーマ「テラワダ仏教文献における善巧方便の諸相」

日時：2017年12月5日(火)16：00～18：00

会場：親鸞仏教センター5F セミナー室

講師：河崎豊氏（東京大学大学院人文社会系研究科助教）